

令和4年度第1回朝日町総合教育会議 議事録

日 時 : 令和4年11月2日(金) 午後1時00分～午後2時10分

会 場 : さみさと小学校 音楽室

出席者 : 朝日町長 笹原靖直
教育委員 河村智明(教育長職務代理者)、コケシュ知子、
石坂博信、澤木昇
教育長 木村博明
オブザーバー さみさと小学校長 四杉昭康、
あさひ野小学校長 竹内静、
朝日中学校長 梅澤健一
事務局 (町長部局)
総務政策課長 谷口保則、
住民・子ども課長 加藤優志
(教育委員会事務局)
事務局長 水野真也、スポーツ局長代理 若林仁美、
学校教育局長代理 坂藤左恵子、生涯学習係長 高瀬博樹、
教育センター指導主事 横山亜希子

傍聴者 : なし

- 会議次第 : 1 開 会
2 町長あいさつ
3 協議事項
(1) 朝日町型未来創造DXプロジェクトについて
(2) その他
4 閉 会

水野局長： ご案内の時間になりましたので、只今から 令和4年度第1回 朝日町総合教育会議を開催いたします。はじめに、笹原町長がご挨拶申し上げます。

笹原町長： 本日は、令和4年度第1回朝日町総合教育会議を開催いたしましたところ、教育委員会の皆様には、大変ご多用の中、ご参集賜りましてありがとうございます。また、本日はオブザーバーとして、小中学校の校長先生方にも参加いただいております。町では「子育て応援日本一のまち」を目指し、子育て環境づくり、子育て支援策を充実・推進し、切れ目のないトータルな形での支援に努めているところであります。教育面においては、これまで生徒1人1台タブレット端末を活用したICT教育、本年度より、保小中一貫教育の導入とコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進を行っており、町独自の教科「ふるさと科」を創設し、地域の方々のお力をお借りしながら、ふるさとの自然や歴史、文化を学ぶ機会の充実を図っているところであります。さて、総合教育会議につきましては、町と教育委員会が一体となって、教育行政を推進するための場であり、町長が招集することとされております。本日は、「朝日町未来創造DXプロジェクト」について皆様方と協議を行いたいと思います。この後、事務局から説明がございしますが、皆さまには忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げます、簡単ではございますが、開会のご挨拶といたします。

水野局長： それでは、会議の進行につきましては総合教育会議 設置要綱 第4条第3項の規定により、町長にお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

笹原町長： それでは、協議事項についてであります。（1）の「朝日町未来創造DXプロジェクト」について、事務局から説明願います。

水野局長： それでは、説明の前に 実際の授業の様子をスクリーンでご覧ください。

横山指導主事： （映像の説明）

木村教育長： まず今回協議いただきますのは、「朝日町未来創造DXプロジェクト」についてでございます。簡単に提案の理由をお話いたします。皆さんご存知の通り近年少子高齢化・グローバル化、さらに急速なデジタル技術の進展などに伴って社会が急激に変化しているという状況の中で、まさに予想

困難な時代を迎えているところでございます。このような時代にありまして、子供たちが身近な事から解決すべき課題を見つけ他者と協働して積極的にその課題と向き合って解決に向けて取り組んでいく力が今求められているところでございます。2枚目をご覧ください。新しい学習指導要領の総合的な学習の時間では、「未来社会を切り拓く確かな資質能力の育成に向けた探究的な学習の充実」が重要とされたところでございます。こうした事を踏まえ、朝日町では連携協定を結んでおります(株)博報堂さん、全国的な人材ネットワークと最先端の技術を有する日本を代表する広告代理店でございますが、その博報堂さんと官民協働のプロジェクトを今回立ち上げ、新しい時代に求められる子供たちの学びを進めたいと考えております。

プロジェクトのコンセプトは、「子供たちの社会起業精神をグローバルな視点で育み、朝日町から未来の創造につながるDX教育」でございます。

このプロジェクトの概要につきましては、一つ目として朝日町教育委員会は、(株)博報堂さんとの共同研究を実施し、小中学校での教育実践を行い、自ら課題を発見し解決する力の育成を目的とした課題解決型学習のプログラムの開発を進めることとしております。2点目として、こうした取り組みを通して、これからの時代に必要とされる社会起業家精神、この“社会起業家精神”と言うのはチャレンジ精神とか創造性とか探究心やリーダーシップやコミュニケーション力など、まさにこれからの求められる力でございますが、そうした学びに向かう力を高め、子供たちの“ウェルビーイング(幸せ)”にもつなげたいと考えております。後ほど博報堂さんからもご説明していただく事しておりますので、ひとまず私のほうからはここまでの説明とさせていただきます。以上です。

笹原町長： 只今の事務局からの説明に対して、委員の皆様の前にオブザーバーの校長先生方より、ご意見をいただきたいと思っております。お願いします。

四杉校長： 資料1のプロジェクトの内容の一つ目の課題解決型学習のプログラム開発実践検証というところについては、今回、総合的な学習の時間、そしてふるさと科の学習と関連付けまして、さみさと小とあさひ野小両校の6年生の子供たちを対象に、10時間の計画で試行的に実践しています。朝日町の困っている人を笑顔にするという大きなテーマとして、子供たちはあ

まり経験がありませんが社会課題というものを意識して自分なりの課題を見つけて友達と話し合いながらより良い解決方法を今模索しているところでもあります。先ほどのビデオの通りであります。また先日は先ほども映像でもありましたけれども、博報堂の方から直接話を聞く、そうした学習もありました。朝日町でノックルの仕組みを導入するに至ったその経緯とそれに寄せる思いを子供たちが聞いたところ、非常に刺激を受けた様子でありました。そしてそこで学んだ事を自分の課題解決に活かしてさらに考えを深めていこうとするそういう気持ちを高めたのではないかというふうに思います。資料1の最後の項目の授業へのサポートや先生のスキルアップという事についてですが、今回の実践では普段の教科の授業とは異なった形で、教師はファシリテーターとして学習の主体者である子供たちに寄り添った形で支援していくという授業スタイルをとっています。できるだけ多くの教員に、こうした授業の進め方を学んでもらおうという事で、夏季休業期間に町で全体の教員研修も行いました。テキストに基づいて教師が子供役になって模擬的に授業を行い体験を通して理解を深める事ができたのではないかと考えています。教員の声として「今国が求めている探究的な学習を進めていくためのひとつの方法になりそうだ」といった声もありました。試行的に今回取り組んでおり、改善すべき点もありそうですが、こうした民間の力を活用した教育への期待というものは非常に大きいというふうに考えております。以上です。

竹内校長： 私の方からは、今、四杉校長先生からほとんど授業のことをお話していただいたので、子供たちの変容について話をさせていただきます。今回、答えが決まっていないことに関して“探究していく”という授業で考えを否定しない、間違っても大丈夫という安心感の中で進めていくということで「子供たちは自分の考えや気持ちをこの中でとても素直に話すことができるようになった」というふうに担任は申しておりました。実際に先ほど写真の紹介にもあった付箋を活用したグループワークというものを取り入れているのですが、一人一人が書いた付箋をグルーピングする際に子供たち同士で「これはどこに入るかなあ」というような声をかけ、その声をかけられた子供は「こっちじゃないかなあ」というふうに互いに友達の意見に対してはすぐに反応してグルーピングするということができ、子供たちの力だけで自分たちの考えをまとめていくことができるようになった

てきました。もちろん4時間しか経っておりませんので、今回の授業だけではなく、今まで子供たちの身に付いてきた力とこれまでの学習活動、特にグループワークや対話というものを通してつながったことで、子供たちだけで短時間で自分たちの考えに折り合いをつけて一つにまとめていくことができるようになってきたと思っています。それから、先ほども話に出ておりました、リアルチェンジメーカーとの出会いで、普段なかなか会えない人であり、自分たちが住んでいる町で行われていることを聞いて、すごく驚き、今後の学習への意欲を高めたと感じられました。また、これまで自分の考えをしっかりと文章に書くことをやっていたのですが、自分の意見を発表することに苦手意識をもっていた子供が、今回、グループの中での話し合いを通して話し合うことのおもしろさや自分の考えを友達とつなぎ合わせることのおもしろさに気付いて、とても生き生きと話し合っているという様子が見られました。さらに、この総合的な学習の時間だけではなく国語の時間でそれまでやろうとしていなかった“司会”というような立場で友達の意見を聞き出したり、話し合いを進めたりするという役割にも積極的になる姿も見られました。いろいろな面で子供の力を発揮する機会が増えてきて、子供たちが意欲的になるきっかけになる学習だったと思っております。以上です。

笹原町長： 朝日町の困っている人を助けるという事で、子供たちは順応性が高いですから違和感なくできたと思うんです。

四杉校長： 意識してなかったと思うんです。改めて考えてみるそういった課題を提示してみる事で子供たち今まであまり考えなかったけれども、少しずつ具体化しこれは実は考えていく問題なんだという事をみんな知っていたのではないかと思います。

梅澤校長： 中学校のほうでも校外学習等行っておりまして、1年生は“朝日町再発見”というテーマで行っております。先日も校外学習に行きまして、実際に地域の方から朝日町のよさや課題等を聞き、新たな発見または困り事としての発見という事もありました。2年生のテーマは“職業と私”であり、“14歳の挑戦”という職業体験を通し、朝日町について学ぶ機会をいただいております。3年生は“社会と私”というテーマでこれから校外学習を進めていき、生徒はそれぞれの自分なりの朝日町の良さや課題について課題解決に取り組んでいっております。今小学校のほうで行われておりま

す探究的な学びにつきましては、中学校のほうでも継続しまして中学生なりの探究的な学びにつなげていく事ができたらと考えております。以上です。

笹原町長： 次に、教育委員の皆様より、ご質問、ご意見をお願いします。河村委員お願いします。

河村委員： 今ほど校長先生方からお聞きしておりまして、困っている人たちにどう考えをつなげるか、そういう探究という事、あるいは課題解決学習というところにつながる、こういう発想で進められている。そういう中で子供たちがいろんな発想をもっと幅広くまた深く出してきている。そういうのを見ます時に私ども今までチョーク1本で授業やってきたものですから、そういう事を考えます時にいかにこの子供たちの自発を促しているかそれをよく今お聞きしたようなそんな感じがしております。

笹原町長： ありがとうございます。コケシュ委員お願いします。

コケシュ委員： 今回のプロジェクトのテーマで子供たちについてですが、これまで子ども達も朝日町の中でいろんな社会見学をしたり、ふるさと科もあっていろんな所に授業で連れていってもらって、いろんな方と触れ合ったり話を聞いたり一緒に目で見えて体験して聞いてという経験を積んできたと思います。それがあってどう今回のプロジェクトでみんなで話し合っってそこでまた話し合いの中で深めていって自分達でどう解決していこうという風に取り組めるベースがこれまでであったと思うので、そこで深めていけるのかなと思います。また深めた内容でそれがこれからの授業の方で相乗的にいい風に作用できるのかなと思って期待しております。

笹原町長： ありがとうございます。石坂委員お願いします。

石坂委員： 資料1にも書いてございましたけど、課題解決型の学習プログラム開発について、簡単に分かりやすく感じた事を申し上げますと、今年新設されたふるさと科の第1回の授業が8月に春の四重奏をテーマに行われまして、終了後の生徒の感想文で「来る人に楽しんでもらいたいという地域の人たちの思いも合わせて“春の五重奏”だと感じた」こういった感想文が紹介されておりました。花の連作障害を避けながら、努力されている農家の皆さんの状況も学んだ上での生徒たちの課題解決に向けた期待や思いなど、想像が大きくふくらんでくる感想文であると感じました。こうした発想が我が町再発見あるいは観光振興策などのヒントになって、子供ならではの

気づき発見が生まれてくる社会起業家教育プログラムそういったものの貴重な素材になるのではないかというふうに感じております。もう1点、この探究学習プログラムと言いますかこの学習評価という点から感じておりますのは、朝日町で教育DXによる先進的な探究学習に取り組んできて大変よかったと、あるいは自分の子供は手厚い子育て支援や探究心を育てる朝日町で学ばせたい、こういったようなライフステージの様々な場面で最も成果を感じ取るのはその後の子供たち自身ではないかというふうに感じております。いずれにしても学び方改革の新たな段階に入った先駆的な取り組みであると思っています。以上です。

笹原町長： ありがとうございます。澤木委員、この学校にも校長としておいでになりましたけども、今こういった事に関してその時との時代の違いもあると思いますが、その視点からもぜひご意見を賜ればと思いますが。

澤木委員： 資料いただきました1ページ目の中に、博報堂さんとの連携。今までの総合的な学習を進める上ではこういう様な取り組みはまずありませんでした。この博報堂さんが蓄積されてきたいろんな成果、それらを基にして子供たちの問題解決型学習を進めていくという取り組み、そして私自身の経験からすると、子供というのは一方的に与えられたもので学ぶという事はあまり知識の定着だとか意欲の向上だとかいうのにはつながりませんでした。総合的な学習が入ってきて子供たち自らが考え課題を解決する、また探究する中で得た学びは深い学びとなる。また友達と意見交換しながら築き上げてきたその意見というのは、本人の満足だけでなくて周りの人々の幸せにもつながるような、そういう発展的なところへの学びにつながっていくと、そういうものを目指しておられるという事。子供のウェルビーイングという言葉なんですが、まさに総合的な学習で子供たちが例えば視点にいろいろな考えがあって「今日の授業ではここまでだよな。」って事で先生がまとめられたものを貼ってそれで終わりではないので、その友達の意見を見ながら「あっ、もっとこうしたほうがいいよな。」って次の日考えてきて「先生こんな考えあるんやけど、貼ってもいい？」とそういう事を提案する子がいて、それに対してまた休み時間に他の子たちと集まって「それいいね」とそんなような感じの文科省が求めるスパイラルな学びに発展していく、そういう姿も見られましたので今回の進め方に非常に期待をするものであります。特に子供たちが成就感を持ちながら学びを進めて

いくというのは、これからの日本の社会においてとっても重要な学びにつながっていくのではないかと、そういう先端の部分での感謝と共に大いに期待したいと思っております。

笹原町長：ありがとうございます。ほかにありませんか。ないようですので、本年度より「朝日町未来創造DXプロジェクト」をスタートしていきたいと思えます。

次に（２）番の「その他」に入ります。事務局からお願いします。

水野局長： それでは、その他の資料といたしまして、住民・子ども課から「朝日町の健全育成事業について」という資料２を添付いたしました。時間の都合もあり、今日は説明を割愛させていただきますが、参考として、後ほどお目通しくさせていただきますようお願いいたします。以上です。

笹原町長： それではここで、今回のプロジェクトについて博報堂さんより説明をいただきたいと思えます。

兔洞さん： （博報堂より説明）

笹原町長： ありがとうございます。それでは、本日予定しておりました日程はすべて終了いたしました。以降は、事務局をお願いしたいと思います。

水野局長： ありがとうございます。それでは、閉会にあたりまして、木村教育長からご挨拶いただきたいと思えます。

木村教育長： 町長をはじめ教育委員の皆様、オブザーバーの校長先生方、またご臨席いただきました、吉田参事官どうもありがとうございました。

水野事務局長： ありがとうございます。これもちまして、令和４年度 第１回朝日町 総合教育会議を閉会いたします。